

小学生プログラミング県大会

橋尾君(借陰6)連続最優秀



福井新聞社賞を受賞した橋尾君(22日、鯖江市借陰小)

人の転倒、神回避、装置 全国大会へ

本年度全国選抜小学生プログラミング大会福井県大会(福井新聞社、全国新聞社事業協議会主催)の最終審査がこのほど行われ、最優秀賞の福井新聞社賞に橋尾君(鯖江市借陰小6年)が輝いた。橋尾君は昨年度に続き県大会2連覇。22日、同校で表彰式が開かれ、「去年よりもっとうれしい」と喜びを語った。

児童がプログラミングで独自のソフトウェアを開発し、その発想力や技術力、表現力を競う大会。作品と動画によるプレゼンテーションで審査が行われた。橋尾君の作品は、足首に装着する転倒予防装置。その名も「転倒神回避」。祖父が駐車場で転んでけがをしたのを機に、「怖がらず楽しく歩けるようにしてあげたい」と約半年かけて開発した。障害物に反応する超音波センサーを搭載し、転倒の危険を察知すると、事前に録音した3歳の妹の声で「危ないよ!」と注意を促す。小型パソコン「ラズベリーパイ」でプログラムを組み、LEDライトで足元を照らす機能も備える。

橋尾君は、来年3月に東京で開かれる全国大会に出場する。昨年度は優秀賞に輝いており、「次はもっと良い賞を狙いたい」と意気込んだ。(堀川耀)

最優秀賞以外の入賞者は次の皆さん。

▽優秀賞 らいしゅんブラザーズ(森川煌月、武澤俊甫)ともに円山小(4年)西浦凌鷲(加戸小6年)

▽努力賞 山内虎次郎(円山小6年)梁悦希(沖縄インターナショナルینگレリッschussクール4年)